

# 強者の戦略

論述世界史〔2014年 京都大学 第1問〕

こんにちは。研伸館の世界史の北林です。今回は京都大学の出題で戦後世界を扱ったものにチャレンジしていただきました。戦後世界を扱った問題はこれまでも出題されており、全時代の学習をしておかないといけません。研伸館の授業でも京都大学の2007年の問題（多極化の問題）を授業で扱っています。

論述問題では分裂国家（分断国家）に関する問題がよく見られます。戦後世界を学習するにあたって改めて確認しておきましょう。

## <時代背景を確認>

第二次世界大戦後、国際連合が成立し世界は平和になるかに思われましたが、すでにヤルタ会談あたりから米ソの対立がみられ、戦後は米ソ二極を中心とする東西対立の時代を迎えました。この東西対立は米ソやヨーロッパだけでなく世界中で影響が現れ、さまざまな地域では対立が起こり、分裂国家（分断国家）が成立しました。例えばベトナムではインドシナ戦争やアメリカの介入で分断国家となり、米英仏ソに四国によって分割されていたドイツは東西に分かれて別の国家となり、朝鮮半島は北側をソ連が、南側をアメリカが支配しました。

ちなみにベトナムはベトナム戦争で統一され、ドイツは冷戦終結の翌年には統一されました。朝鮮半島はまだ統一しておらず、そのせいか、現在も日本の周辺で様々な国際情勢に絡む問題が起こっていますね。

## <問われていることを確認>

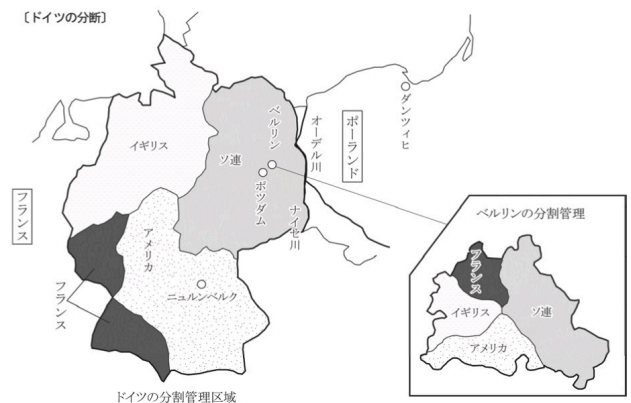
主問は「第二次世界大戦終結から冷戦の終わりまでの時期におけるドイツの歴史」、副問は「ヨーロッパでの冷戦の展開との関連に焦点をあてて」となります。ドイツの様子だけでなく冷戦全体でどうなったかに触れないといけません。時系列でざっ

と歴史を追いかけてみましょう。

## ○ドイツの敗北～四国分割

大戦末期、ドイツは連合国に東西から攻められます。東はソ連から攻撃を受け、西はノルマンディー上陸作戦に成功してフランスを解放した、アメリカ・イギリス・カナダなどの連合軍に攻められます。そしてベルリンはソ連の手に落ち、1945年4月末にはドイツのヒトラー総統が自害し、5月7日には降伏し、ヨーロッパでの戦争は終わりました。

その後、ドイツは四国分割の時期を迎えます。アメリカ、イギリス、フランス、ソ連によって占領されました。ベルリンも四国によって分割占領されます。



（研伸館世界史のテキスト「体系化する世界史より」）

しかし、次第に冷戦が決定的となっていく。チャーチルの「鉄のカーテン演説」、そしてトルーマン＝ドクトリン、マーシャルプランなどで対立が激しくなります。するとドイツも西側（米・英・仏）vs 東側（ソ）の緊張が高まります。

## ○東西ドイツ分裂と緊張緩和

1948年、西側でソ連に無通告で通貨改革が行われます。これにソ連が激怒し、ベルリン封鎖が行われました。いわば西ベルリンの人たちが人質に取られたわけです。

これに対し西側陣営は、ベルリン空輸作戦で対抗

# 強者の戦略

します。すべての必要な物資を空輸するというダイナミックな作戦です。一年と少し行われましたが、輸送機の発着回数は23万回を超えるものでした。ソ連はベルリン封鎖を解除しましたが、結果、東西分裂は避けられず、1949年に東側はドイツ民主共和国、西側はドイツ連邦共和国となります。

1953年にソ連でスターリンが死去すると、流れが少し変わります。いわゆる「雪どけ」の時代を迎え、東西の緊張緩和の時代となります。1955年にはジュネーブ四巨頭会談も開かれ、対話の空気が生まれました。さらに1956年にはソ連共産党第20回大会で平和共存路線が打ち出され、スターリン批判も行われました。ドイツは統一こそありませんが、こうした背景もあって緊張緩和の時代を迎えます。

○再び緊張、そして60年代末～70年代の東方外交

1960年代になると、米ソの緊張が再び高まります。1960年にU2型機撃墜事件があり、1962年にはキューバ危機が occurred。こうして緊張が高まる中で1961年には東西冷戦の象徴ともいわれる、ベルリンの壁が構築されました。

しかし60年代末からまた変化が訪れます。60年代以降は、「多極化」と言われた時期ですが、50年代以降西ドイツは目覚ましい発展をとげていました。東ドイツも工業力では世界でも上位に発展します。60年代末から70年代前半に西ドイツにブラント首相(社会民主党)が現れます。彼の外交は「東方外交」と呼ばれ、ソ連など東側陣営に接近し、また東ドイツとは東西ドイツ基本条約を結び東西ドイツがお互いに認め合うこととなります。この時期の緊張緩和は「デタント」とよばれます。

○冷戦の終結とドイツの統一

1985年に、ソ連ではゴルバチョフ書記長が就任します。新思考外交を掲げた彼の外交は、東西の緊張を緩和していきます。1987年にはINF全廃条約をアメリカのレーガン大統領と結び、初めての核削減を

実現します。

ゴルバチョフ書記長の登場は東欧世界に大きな影響を与えました。1988年には新ベオグラード宣言を出し、東欧への指導的役割を否定します。彼の出現によって東欧の独裁政権が倒れていくなど、は東欧の民主化を急激に進めることになりました。東ドイツではホネカー書記長が退陣しています。

1989年11月にはベルリンの壁が崩壊し、12月にはアメリカのブッシュ大統領、ソ連のゴルバチョフ書記長の間でマルタ会談が行われ、冷戦が終結しました。そして翌90年には東西ドイツの統一がなされていきます。

では、以上をヒントに解答文を作成してみましょう。

## 【解答例】

ドイツは戦後、米英仏ソの四国に分割占領されたが、トルーマン＝ドクトリンによる対ソ封じ込め政策以降冷戦が本格化し、1948年の西側占領区での通貨改革を契機にソ連がベルリン封鎖を強行した結果、東西に分断されてそれぞれ建国された。ソ連のスターリン批判と平和共存の表明で冷戦は緩和するが、60年代に再び対立が激化し、ベルリンの壁も構築された。70年代のデタントの時代にブラントの東方外交で東西ドイツが互いを承認し、80年代にソ連のゴルバチョフが新思考外交を提唱すると、米ソ対立は緩和されて東欧の民主化が進んだ。1989年にベルリンの壁が崩壊した翌月、マルタ会談で冷戦が終結し、1990年にドイツは統合された。(300字)

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？

論述問題の解答はもちろん一つではありませんので、「これはどうだろうか？」と気になるところが出てくるとおもいます。その際は遠慮なく質問してください。

# 強者の戦略

そして添削を希望される方も遠慮なくおっしゃってください。

ではまた次回、お会いしましょう

北林久忠